

ellipse

平成20年
5月

[エリプス]

TOPICS

徽音堂物語 9

国の登録有形文化財建造物に

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津知寿 FUKATSU, Chizu イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。



特定非営利活動法人
お茶の水学術事業会

REPORT

共催講演会「われ思う、ゆえにわれ悩む」

土屋 賢二 先生

男女共同参画事業「女性のための起業入門セミナー」

科学史散歩(特別篇)

速報! 「なでしこたちの挑戦—日本の女性科学者技術者」

INFORMATION

イベント情報

事務局よりお知らせ

き いん どう
徽音堂物語 9

国の登録有形文化財建造物に



昭和初期に、文部省大臣官房建築課の設計・監督によって建てられた「大学本館」・「大学講堂(徽音堂)」・「附属幼稚園園舎」・「大学正門」の4つの建造物が、このたび国の登録有形文化財建造物になりました。

徽音堂物語の第9回は、その経緯と併せて、大学本館と附属幼稚園園舎の特徴をご紹介します。

登録有形文化財とは

近年の国土開発や都市計画の進展、生活様式の変化等により、社会的評価を受ける間もなく消滅の危機にさらされている近代の文化財建造物を後世に幅広く継承していくため、平成8年10月に「文化財登録制度」が導入されました。この制度に基づき、文部科学大臣が文化財登録原簿に登録した建造物を登録有形文化財建造物といいます。

原則として、建築後50年を経過し、かつ

- (1) 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- (2) 造形の規範となっているもの
- (3) 再現することが容易でないもの

のいずれかに該当していることが条件となります。

登録までの経緯

平成18年10月17日	大学本館改修記念式典に文化庁の方が出席
11月14日	文化庁より、大学本館・講堂などの建造物を有形文化財として登録したいとの連絡
平成19年8月1日	大学本館、講堂、正門、附属幼稚園園舎について登録申請。建造物の写真、配置図、平面図、求積図、登記証明書等に、藤岡洋保氏(東京工業大学大学院理工学研究科教授)による建築史的所見、東京都の進達書、文京区の意見書を添えて提出
9月12日	文化庁、東京都、文京区の3者による実査
12月7日	文化庁より登録の答申
平成20年3月19日	渡海紀三朗文部科学大臣名で登録証発行

大学本館

関東大震災後の東京では、東京帝国大学をはじめ、東京商科大学(一橋大学)や東京工業大学などの国立高等教育機関で不燃構造による校舎復興が行われました。

震災で湯島キャンパスを焼失した本学も、1928(昭和3)年に現在の大塚に移転し、附属幼稚園・小学校・高等女学校が作られました。その復興事業の中心的建物として1932(昭和7)年8月31日に竣工したのが本館です。鉄筋コンクリート造3階建てで、当時の記録には建設期間600日、延べ人員55,032名、工事金額482,000円(徽音堂を含む)とあります。

建物は左右対称で、高さや装飾によって中央部分を強調するという当時の国立高等教育機関本館の一般的なデザイン手法を踏襲しつつも、正面中央部に塔を配していない点が他と異なります。代わりに、その部分のパラペット(屋上の外周に設けられた低い壁)を少し高くして、表現主義風のカーブでまどめています。壁面に曲線で構成された植物文様のレリーフをあしらっていることと併せて「女子校らしい」デザインといえるかもしれません。

本館のもう1つの特徴は、正面玄関の上(2階)に貴賓室を備えているということです。窓からキンモクセイと銀杏並木

に続く正門を望むことができるこの部屋は、卒業式等に皇后がご臨席なさる際の控え室として作られたのですが、昭和12年に講演に訪れたヘレン・ケラー女史など賓客の応接にも使用されたようです。当時の本学の格式の高さを物語るこの部屋は現在、大学会議室と呼ばれ、重要な会議等に使用されています。



▲登録証-正門は「表門」の名称で登録された

附属幼稚園

附属幼稚園は、1976（明治7）年11月16日に開設されたわが国最初の官立幼稚園です。

大学本館が当時の典型的な建物であるのに対して、1931（昭和6）年6月に完成した幼稚園園舎は、平屋であるにもかかわらず鉄筋コンクリート造で基礎が深く丈夫に作られている点、内部の天井がとても高い（保育室は3.35m、中廊下は4.15m）という点において「他に類を見ない幼稚園建築」（藤岡氏の所見）なのだそうです。当時56,200円をかけて造られたこの建物は、頑丈なだけでなく、玄関ホール上に花のレリーフをあしらったり、屋上のパラペットのグリルをお伽噺「うさぎとかめ」の模様にしたりするなど、幼稚園らしい装飾も随所に施されています。

内部の床は、玄関ホールがタイル張りであるほかは、すべて檜材のフローリングで、廊下から続く各保育室の出入り口上部には、「やまのくみ」、「かわのくみ」などクラス名に対応した模様のステンドグラスがはめてあります。文字ではなく絵画的な情報で教室名が分かるように工夫されているのです。

なるべく自然の環境を体験できるように作られている園庭も

含め、幼児教育に対する高い理想のもとに作られた施設といえるでしょう。

なお今回は、園舎だけではなく、同時期に作られた園庭の砂場の縁も一緒に登録となりました。

未来に受け継ぐために

現在6,700件近くある登録有形文化財建造物の多くは、実際に活用されている建物ですが、外観の4分の1以上を改修する際に文化庁への届出が必要である以外には、特に規制はありません。建造物の保護は、その所有者・使用者に委ねられているのです。

お茶大では、施設チームが中心となって、「本館及び講堂内は貼り紙禁止」とする、壁などに小さな傷を見つけたらすぐ修理するなどの努力をしているそうです。

歴史と伝統のある建物をきちんとした形で次世代に伝えていくためには、私たちの自覚と協力が必要なのだと感じました。

写真提供：お茶の水女子大学施設チーム

取材協力：施設チーム・副チームリーダー 神田浩美氏

大学本館



▲ 正面玄関の上（2階）が貴賓室（現大会議室）



▲ ぶどうの房と茎のレリーフ



▲ 貴賓室のペルシャ絨毯・壁紙は、平成18年の改修工事の際に建設当初の色、柄に復元された



▲ 廊下



▲ うさぎとかめをデザインしたグリル

附属幼稚園



▲ 園舎の外観一玄関前のヒマラヤスギは竣工時に植えられたもの



▲ 「かわのくみ」のステンドグラス



▲ 登録有形文化財プレート（幼稚園）

■ 共催セミナーのご報告 お茶の水女子大学文教育学部教授 土屋 賢二 氏 講演会

「われ思う、ゆえにわれ悩む」

● 日時 2007年12月15日 14:00～16:00 ● 場所 お茶の水女子大学本館 306
 ● 主催 お茶の水地理学会 ● 共催 お茶の水学術事業会

当日はOGを中心に130名ほどの参加がありました。ジーンズに皮のジャケットといういでたちで颯爽と現れた先生は、哲学を学問として学び始めたきっかけや哲学的な考え方について、ユーモアを交えながら分かりやすくお話してくださいました。その一部をご紹介します。

何も知らない他人から「女子大は良い」とか「学生が可愛くて良いね」などと言われますが、女性教員の中には結構厳しい人もいるし、学生からはすぐに突っ込まれたり要求を突きつけられたり、女子大は見た目ほど楽ではないと切に感じています。

苦しい思いをしている場合、普通だったらウサばらしのストレス解消法でも考えるのですが、哲学者である自分は「なぜ苦しいのか?」と考えます。それも個人的な苦しみではなく、普遍的に「何故、人類は苦しむのか?この苦しみはどこから来るのか?」というところまで考えてしまいます。今日は「苦しみから逃れる方法」という話をしても良いと思っていたのですが、会場の顔ぶれを見ると「もっと苦しんでも大丈夫!」と思えるので、「苦しみ」の話ではなく、40年以上も取り組んでいる「哲学」について話すことにします。

私が哲学を学問として始めたきっかけは、大学時代に『哲学解説』という授業でハイデッカーについて学んでいた時に、著書の『存在とは何か』に出会ったことでした。

哲学というのは、答えは簡単なのですが、そこになかなか気がつかないところが難しいのです。たとえば、「不思議」という言葉を考えた時に、ダイエットのために泳いでいても痩せないのが不思議だという場合には、それは必要以上に食べているからだということで簡単に説明がつきますが、哲学で「不思議」という場合には、これとは質が違います。そこで、不思議という言葉を経験的に分析してみると、次の2通りの意味があるこ

※哲学に興味をお持ちになった方は「ツチャ教授の哲学講」(岩波書店)「妻と罰」(文藝春秋社)などを、お読み下さい。「ツチャ教授」とカタカナになっていて、なんだかバカにされている気がする」と先生が話したところ、学生から「カントもプラトンもカタカナです」と返されたというエピソードも楽しそうに披露してくださいました。

■ 講師派遣事業のご報告

小平市中央公民館の市民を対象とした女性セミナーに講師をご紹介しました。このセミナーの様子は次回のエリプスでお伝えする予定です。

「明治から昭和に生きた女性作家」

期 日 : 5月8日～7月10日 毎週木曜日(全10回)

場 所 : 小平市中央公民館

講 師 : 菅 聡子 氏(お茶の水女子大学教授)

久保田 裕子 氏(福岡教育大学准教授)

武内 佳代 氏(お茶の水女子大学大学院博士後期課程、
お茶の水女子大学附属高等学校非常勤講師)

倉田 容子 氏(お茶の水女子大学リサーチ・フェロー)



とが分かります。

1. 特徴があるから不思議—

「空はなぜ青いのか不思議だ」というような場合です。哲学では、「光散乱の法則があるから」ではなく、「なぜその光散乱の法則があるのか?」と考えます。この場合の「不思議」は、空の青さを自分で特別扱いして不思議がっているということを報告していることとなります。

2. すべての事が不思議—「今、目の前に机が存在することを不思議に思う」というようなことです。無数の原子や分子の組み合わせの可能性の中から一つの机ができあがり、その色・形・大きさから置かれている場所に至るまで、様々な可能性の中から、今ここに“この机”が存在していると考えられます。このように、物事はすべてわずかな可能性が集まって出来上がっていると考えると、それは奇跡に近いということになります。つまり、世の中に不思議ではないものはない事になり、自分たちは奇跡の中に生きていて、ありえない事が実現しているということになるのです。この“どんな物でも不思議”には答えがありません。なぜなら、どうしたら不思議でないのかということをお答えできないからです。答えがないものは、問題とは言えないのです。

つまり、哲学とは言葉をクリアに理解するということで、国語とは違います。哲学においては、その言葉がどんな意味で使われているかを考える事が重要になるのです。

講師斡旋及び地方講演会共催のパートナー募集

ご要望に合わせて講演会やセミナーに最適な講師を斡旋いたします。お気軽にお問い合わせください。

また、東京都以外の地域での講演会を共催していただけの団体等がございましたら、ぜひ、お茶の水学術事業会までご連絡ください。



男女共同参画事業のご報告



大好評! 女性のための起業入門セミナー

お茶の水学術事業会は、文京区の男女協働・特命担当課との共同開催で「女性のための起業入門セミナー」を実施しました。

- 【日時】 2008年3月1日(土)、2日(日)
- 【会場】 文京シビックホール5階会議室
- 【受講料】 テキスト代…1000円、懇親会参加費…500円
- 【講師】 上條茉莉子氏(コペルネット(株)代表)
- 【保育】 無料(2歳以上就学前まで)

定員30名のところ、39名の応募者があり、抽選なしで全員当選となりました。(中には卒業生の母・娘と一緒に参加の方も)。保育希望者は4名で、文京区が託児室を提供、保育士さんも派遣するなどの協力体制が整い、受講者は安心してお子さんを預けることができました。

上條先生の女性の視点での講義は、具体的な内容で「わかりやすく勉強になった」と大好評でした。受講者はすぐにも起業したい人や、専業主婦で何かを模索中の人など様々でしたが、1分間自己紹介やグループワーク、意見発表など真剣に取り組んでいました。

また、自由参加の懇親会は当会が企画・運営し、卒業生で



カリキュラム		
日	時間	内容
3月1日 (土)	9:30~9:35	事務連絡
	9:35~12:00	総論「21世紀の経済動向と女性が起業することの意義」 起業事例の紹介、女性起業家の状況等も含めて…
	(12:00~13:00)	休憩・昼食
	13:00~14:00	起業とはどういうことか?(起業の形態、起業の手順)
	14:00~16:30	会社経営の基礎、マーケティングの基礎、経営戦略
3月2日 (日)	9:30~9:35	事務連絡
	9:35~10:30	コスト計算、採算計算
	10:30~12:00	会社のしくみと商取引(会社経理)、財務諸表の見方
	(12:00~13:00)	休憩・昼食
	13:00~13:30	事業計画の立て方
	13:30~15:00	グループワーク~簡単な事業計画を立ててみよう~
	15:00~16:00	グループ発表&講評
	16:00~16:30	起業・創業チャレンジ支援とプロジェクト
16:30~	情報交換・交流会(自由参加)	

(株)プリモパソンの代表取締役・太田みえさんに先輩起業家としての体験談を話していただきました。続いて、お茶大コーフルとコーヒーを頂きながら活発な話し合いが行われ、積極的に名刺交換する光景も見られました。受講生の有志で今後メーリングリストを作り情報交換をしていくそうです。丸2日間の集中講義は大変充実したものになりました。

行政との連携は初めての試みでしたが、お茶の水学術事業会として今後もいろいろな形で女性たちを支援していきたいと考えています。

予告

起業セミナー第2弾~女性のためのPC教室(予定)
日程:6月24日(火)、26日(木)、7月1日(火)、3日(木)
時間:13:30~16:30
会場:文京区教育センター内PC教室
詳細は、文京区広報・HP、お茶の水学術事業会HPをご覧ください。

後援事業のご報告

事業会の定款「子供の健全育成を図る事業」(第4条3項)の一端として、いじめから子供を守ろう!ネットワーク(「エリプス」14・15号に広告掲載)主催の下記シンポジウムを後援しました。

創立1周年記念シンポジウム

「いじめは犯罪!ぜったいに許さない!」

- 【日時】 2008年2月24日 13:00~16:00
- 【場所】 品川区総合市民会館 きゅりあん 8F 大ホール
- 第1部 基調講演「いじめを克服するために何が必要か」
渡部 昇一氏(上智大学名誉教授)
- 第2部 パネルトーク
「いじめは必ず克服できる!知恵の共有が子供を救う」



現代の「いじめ」問題の深刻さを一人でも多くの方々に知っていただけるよう、このシンポジウムの内容を中心としたブックレット「いじめは犯罪!ぜったいに許さない!」(いじめから子供を守ろう!ネットワーク編)を発行しました。ご希望の方は、お茶の水学術事業会までご連絡ください。



お茶の水女子大学 イベント情報

2008年6月以降に開催される各種イベントのお知らせです。詳細は、各主催者にお問い合わせください。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2008年6月28日(土) 10:00～12:00	幼児教育未来研究会 テーマ：規範意識の芽生え ◆事例提供：大田区立大森第四幼稚園 ◆助言：小田 豊 先生（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 理事長）	無料 資料代をいただく場合があります。	【会場】お茶の水女子大学附属幼稚園 【詳細・お申込み】 子どもセンターのホームページからリンクできます。 http://www.u-gakugei.ac.jp/~miraiken/
2008年7月5日(土) 10:30～18:00	第10回国際日本学シンポジウム セッション1 テーマ：人類・食・文化 ◆講演 1. フランソワーズ・サバン氏（日仏会館フランス学長） 2. マクシム・シュワルツ氏（パスツール研究所名誉所長、元フランス食品衛生安全庁） ◆研究発表 ◆パネルディスカッション 司会：古瀬奈津子氏、村田容常氏（お茶の水女子大学教授）	無料 資料代 500円	【お問い合せ先】 お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム JCS 推進室 開室時間：平日 10:00～17:00 Tel:03-5978-5504 Fax:03-5978-5508 E-mail:gsgp-jcs@cc.ocha.ac.jp
2008年7月6日(日) 13:00～18:00	第10回国際日本学シンポジウム セッション2 テーマ：源氏物語の千年 —日本と欧米における源氏絵の旅— ◆研究発表 司会：ロール・シュワルツ＝アレナレス氏（お茶の水女子大学准教授） ◆全体パネルディスカッション 司会：平野由紀子氏（お茶の水女子大学教授）		
2008年7月19日(土) 13:00～	国際シンポジウム 「21世紀に生きる女子大学」 「女子大学」の役割はどこにあるのか、私たちに、何が期待されているのかについて「女子大学」の21世紀を展望するとともに、国際的な女子大学のネットワーク作りを目指します。	無料	【会場】東京国際交流館プラザ平成国際交流会議場 【主催】独立行政法人日本学生支援機構 お茶の水女子大学 【お問合せ先】お茶の水女子大学国際交流チーム Tel:03-5978-5722 Fax:03-5978-5951 E-mail:ryu@cc.ocha.ac.jp
2008年8月11日(月)～12月16日(火) 平日 18:30～20:00 土曜日 10:00～13:20 14:00～17:20	2008年度後期公開講座 化学・生物総合講座管理の再教育講座 (全10科目/1科目は90分授業で15回構成/科目選択自由)	無料	【主催】お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター(LWWC) 【会場】お茶の水女子大学 ※一部の科目は共催機関で開講 【お問合せ・お申込み】 お茶の水女子大学「化学・生物総合管理の再教育講座」事務局 E-mail:koukai-c@cc.ocha.ac.jp Tel:03-5978-5096 Fax:03-5978-5019 http://www.lwwc.ocha.ac.jp/saikyouiku/

南門のアイドルミーちゃん



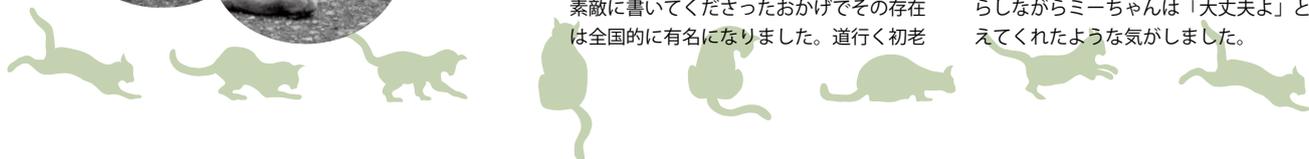
寺社の狛犬、沖縄のシーサー、NYパブリックライブラリー入口のライオンなど、出入りする人に幸運を招き、邪気を払うといわれる動物像は各地で見られ、そのどれもが人々に愛されてきました。

お茶大の南門には守衛さんとともに朝夕に学生を見守っている猫がいます。通称ミーちゃんです。

篠塚英子先生（お茶大名誉教授、当会理事）が2008年2月の日経新聞のコラムに素敵に書いてくださったおかげでその存在は全国的に有名になりました。道行く初老

のご夫婦が「あら、新聞に載っていた守衛さん猫だわ」と話しながら門を覗き込んだり、親子連れが「今日もいるね」と立ち止まって声をかけたりとすっかり地元の人気者です。

不安と期待でいっぱいの新入生も門の傍らでくつろぐミーちゃんを見るたびにアニマルセラピー効果で癒されていることでしょう。今朝も「いい日になりますように」と語りかける私にピンクの首輪ののどを鳴らしながらミーちゃんは「大丈夫よ」と答えてくれたような気がしました。



科学史散歩・特別篇

速報! 「なでしこたちの挑戦」—日本の女性科学者技術者—

(日本の科学者技術者展シリーズ 第5回)

3月22日(土)～5月6日(土) 於: 国立科学博物館日本館

国立科学博物館では、2004年より「日本の科学者技術者展シリーズ」と題して、江戸時代以降に活躍し科学技術の発展に寄与した我が国の科学者・技術者について、その果たした役割、研究成果を紹介する企画展を開催しています。

今回の「なでしこたちの挑戦」では、明治から昭和にかけて活躍した女性科学者・技術者として、荻野吟子(日本最初の公許女性医師)・吉岡彌生(初の女性医師養成機関創立者)・香川綾(実践栄養学の母)・保井コノ(日本初の女性博士)・黒田チカ(女性初の帝国大学入学生)・湯浅年子(国際的な女性物理学者)を取り上げました。教育や職業・社会的地位に男女の区別がまだ根強く残っていた時代に、女性が科学の道を志し、それを職業にするとすることは、まさしく「挑戦」に他なりません。彼女達は困難に直面してもあきらめることなく前進し続け、道を切り拓いていったのです。

この時代に女子が理学系の学問を系統的に学ぶことができる数少ない場として、東京女子師範学校(後に女子高等師範学校、東京女子高等師範学校と改称)の果たした役割は大きく、荻野・保井・黒田・湯浅はその出身者です。今回の展覧会には、お茶の水女子大学も学術協力をし、保井コノの顕微鏡やプレパラート、黒田チカが作成した標本、湯浅年子の国際学位記やノート、スケッチなどの貴重な資料を提供しました。

紹介された彼女達の言葉や様々な資料から、6人の女性達には3つの共通点があるように思いました。才知にたけていただけではなく揺るぎ無い信念と強い情熱の持ち主であったこと、彼女達の資質を認め手を差し伸べた人々が周囲にいたこと、そして自身の夢を実現しただけではなく、後進女性の教育にも尽力し、その道標となったということです。

男性中心の日本の大学で学んだ経験を持つ保井・黒田・湯浅は、女性が自由に学問をすることができる国立の総合女子大学を設立するために、戦後精神的に運動をし、1949年、お茶の水女子大学の発足に至ります。「女子東京大学(THE UNIVERSITY OF TOKYO FOR WOMEN)」の肩書きが入った湯浅の名刺や保井・黒田ら当時の教授たちが署名した「大学名懇願書」など、その意気込みを伝える資料も、今回は紹介されました。

また、現在夢に向かって挑戦している女性の一人として、お茶大のサイエンス&エデュケーションセンター リサーチ・フェローの後藤真里さんが、「(前略) 日々の実験は継続こそ力なりです。しかし、継続には多少の困難も伴います。そんなときに“楽しむ”という姿勢が大切なのだと思います。何事もやってみなければ分かりません。常に楽しむという前向きな気持ちを持って、皆さんも科学者への道を進んでみませんか」という、素敵なメッセージを寄せていました。

来場者の感想コーナーには、「厳しい環境の中でも自分の夢を実現させるために懸命に生きる姿を素晴らしいと思いました」、「こんな素敵な方々がいたことを知りませんでした。私も夢をあきらめずに頑張ります」という声とともに、「荻野吟子のような女医になりたい」という小学生の言葉が残されていたのが印象的でした。時代は移り変わっても、なでしこ達の挑戦する魂は受け継がれていくのだと感じました。

写真提供:

荻野吟子・吉岡彌生—東京女子医科大学史料室

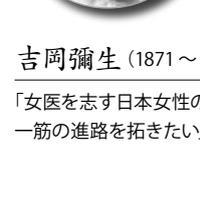
香川綾—女子栄養大学 香川昇三・綾記念展示室

保井コノ・黒田チカ・湯浅年子—お茶の水女子大学ジェンダー研究センター



荻野吟子 (1851～1913)

「人其己の友のために命を捨る。
これより大なる愛ハなし」
(ヨハネ伝第15章第13節)



吉岡彌生 (1871～1959)

「女医を志す日本女性のため、
一筋の進路を拓きたい」



香川綾 (1899～1997)

「すべての人が健康で、そして
幸せであるように」



保井コノ (1880～1971)

「自分の仕事が残っていけば、
それだけで自分は満足できる」



黒田チカ (1884～1968)

「天然のものは正直。真を以って
一生懸命で向かったら、必ず門
を開く」



湯浅年子 (1909～1980)

「科学の根本精神は、広い
豊かな愛である」

創立130周年記念DVD

『お茶の水女子大学の130年
—東京女子高等師範学校篇—』

お茶の水女子大学創立130周年を記念して、
本学の歴史を紹介するDVDが作成されました。
映像と写真を中心に、明治8年から昭和24年
までの記録が紹介されています。(収録時間48分) 価格:2,300円(税込)

◆お問合せは、お茶の水女子大学広報チームまで

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp TEL:03-5978-5105



お茶大ゴーフル 好評発売中!!



- ・ばにら・ちょこ・いちご各4枚入 600円(税込)
- ・地方発送も承っております(送料はお客様負担となります)

お茶の水ブックレット・お茶大ゴーフルのご注文はお茶の水学術事業会事務局まで
E-mail: info@npo-ochanomizu.org TEL & FAX: 03-5976-1478

お茶の水ブックレット



- 第1号「教育と平和—アフガニスタン女子教育支援シンポジウムから」
- 第2号「国立大学改革とお茶の水女子大学のゆくえ」
- 第3号「ライフワールド・ウオッチセンター」(在庫切れ)
- 第4号「生命科学フォーラム」
- 第5号「現代女性の恋愛・結婚・就労パズル」
- 第6号「『女性と科学』を科学する」
- 第7号「家族と犯罪—近しい者の憎悪はなぜ?」

1冊 500円(税込・送料別)



”おいしい食パン“って、
こういうことなんですね。

特撰
超芳醇

AsahiKASEI
旭化成の住まい

はじめまして
ヘーベルハウス
です

“大切な家づくり”
窓口担当
お任せ下さい!

無料設計・無料土地診断
承ります

ロングライフ住宅。
ヘーベルハウス

<http://www.asahi-kasei.co.jp/ihnavi/ochanomizu/>
お茶の水学術事業会様専用ページからお問合せいただけます。

旭化成ホームズ株式会社 東京総合営業所 窓口担当:西野
〒160-8345 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル10F
電話03-3344-7791 FAX 03-3344-7793

編集後記

銀杏並木とキンモクセイの深緑が大学本館と絶妙なコントラストを見せるこの季節、正門から望む大学の姿には気品が漂っています。移転後80年間にわたり多くの女性研究者達を育ててきたこのキャンパスで、今日も夢に向かって挑戦している平成のなでこ達の傍らには、のんびりと日向ぼっこをする猫や亀。お茶大の懐の深さを感じられる光景です。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか? 次号は9月に、2500部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

事務局

OPEN 月~金 10:00 ~ 16:00
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部3号館 204
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail: info@npo-ochanomizu.org
<http://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。

◆事務局所在地
東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学
理学部3号館204

◆交通機関
地下鉄 丸の内線
茗荷谷駅から徒歩7分
地下鉄 有楽町線
護国寺駅から徒歩8分
都バス
大塚2丁目バス停すぐ